

表 4

結果				
子宮頸がん予防ワクチンの接種継続群と接種中断群および接種を開始していない群の比較				
質問	回答	継続 (n=200)	中断/ 開始せず (n=400)	p
ワクチンの予防効果について				
	60%以上	135(68%)	208(52%)	0.00033
	60%未満 or まだわかっていない	64(32%)	191(48%)	
重篤な副反応の頻度				
	1万人に1人未満	52(26%)	62(15%)	0.0028
	1万人に1人以上	148(74%)	338(84%)	

ワクチンの予防効果、重篤な副反応の頻度の認識が接種の中断、開始に影響している。

表 5

接種継続群と接種中断群の比較				
質問	回答	継続 (n=200)	中断 (n=200)	p
ワクチンの効果について				
	説明を受けた	144 (72%)	121 (60%)	0.020
	説明をうけていない	56 (28%)	79 (39%)	
ワクチンの副作用について				
	説明を受けた	150 (75%)	114 (57%)	0.00021
	説明を受けていない	50 (25%)	86 (43%)	
接種者である娘の反応				
	子宮頸がんになるリスクが 軽減するなら良い	53 (26%)	40 (20%)	0.16
	選択せず	147 (73%)	160 (80%)	
	想像以上に痛かった	67 (33%)	55 (27%)	0.23
	選択せず	133 (66%)	145 (72%)	
	もう接種したくない	23 (11%)	25 (12%)	0.88
	選択せず	177 (88%)	175 (87%)	
	副反応報道がこわい	20 (10%)	29 (14%)	0.22
	選択せず	180 (90%)	171 (85%)	

医師の説明が接種の継続、中断に影響している。
接種者本人の反応は接種の継続、中断に影響していない。

図 22

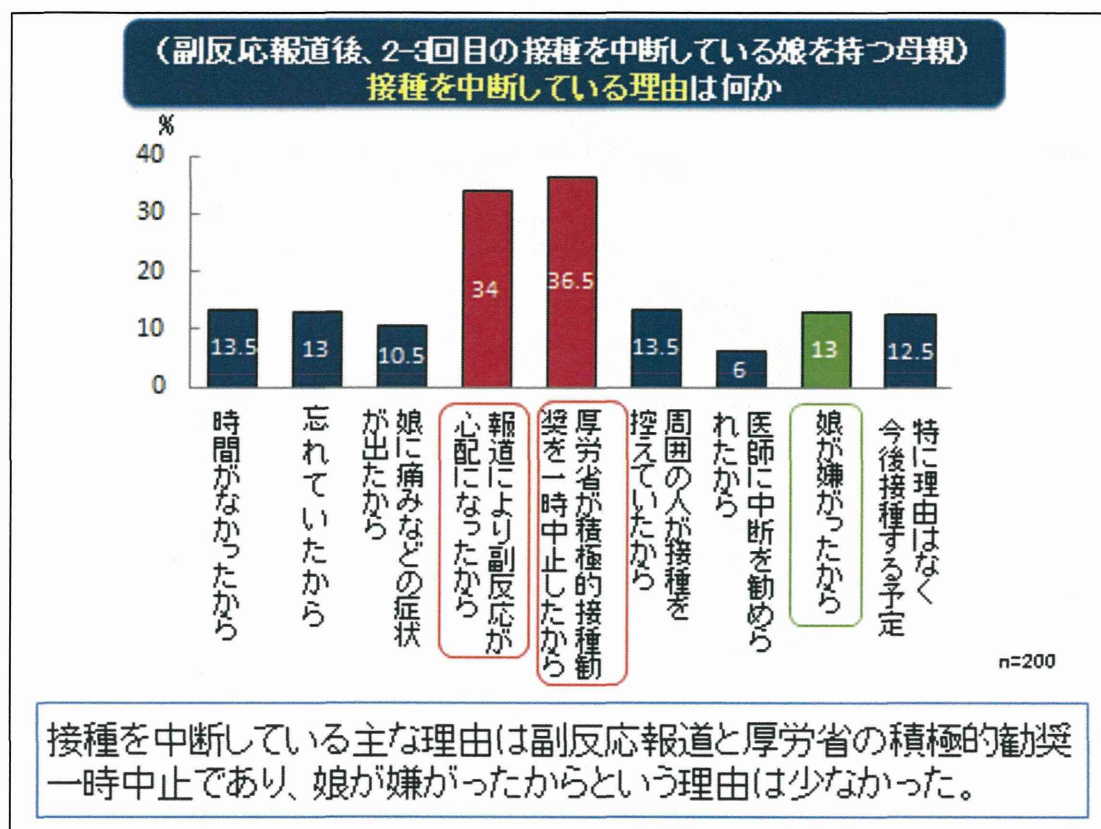


図 23

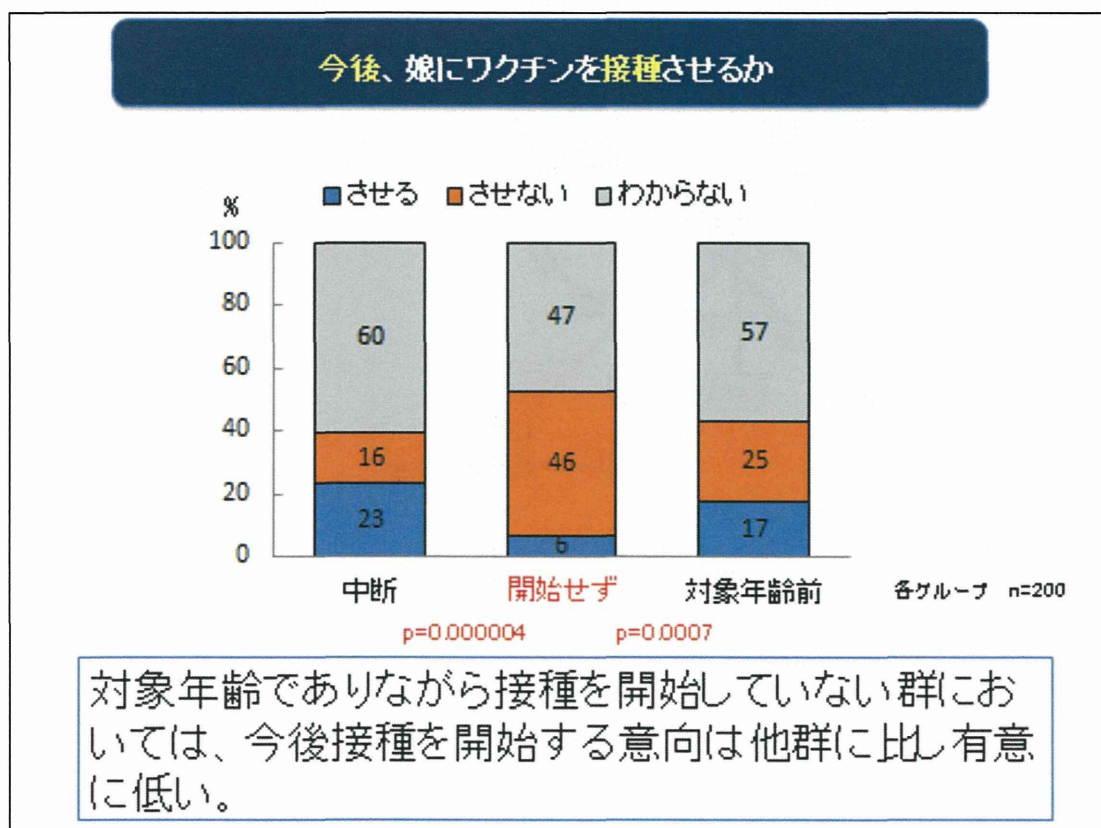


図 26

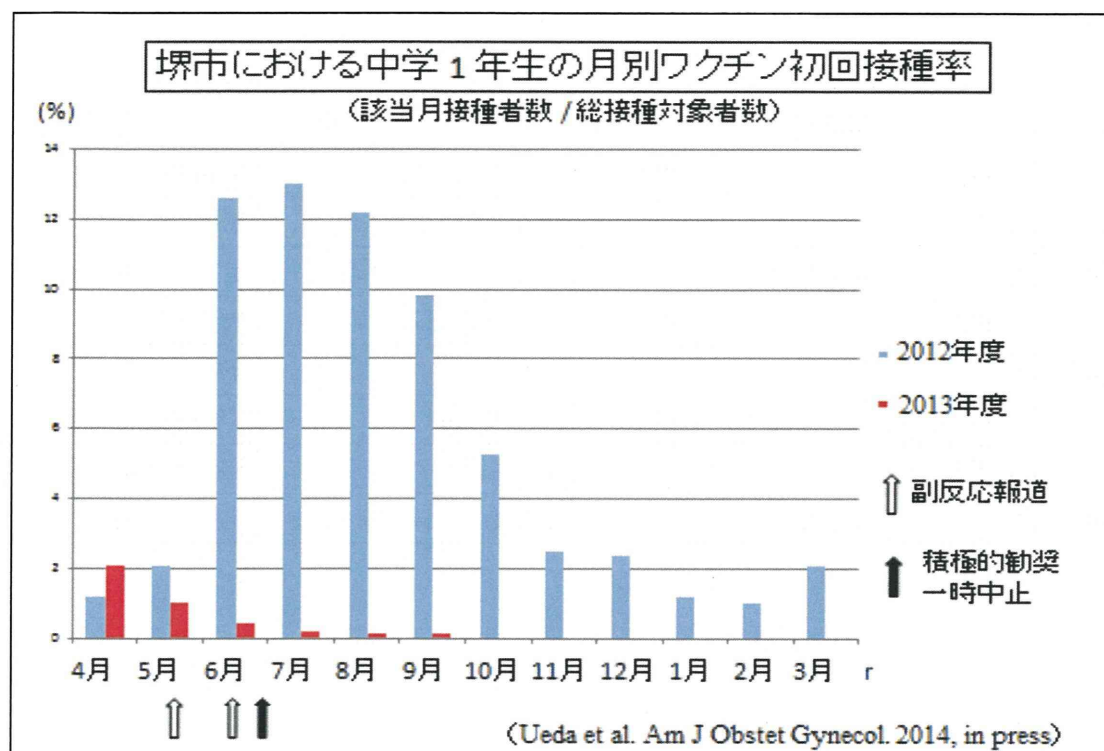


図 27

堺市における学年別ワクチン接種率

	2012 年度	2013 年度
中学 1 年生	65.4%	3.9%
中学 2 年生	74.8%	66.5%
中学 3 年生	65.3%	75.4%
高校 1 年生	57.8%	65.0%

(Ueda et al. Am J Obstet Gynecol. 2014, in press)

表 6

	本人の 年齢	子ども の年齢	今後の予防ワクチン接 種意向	子どもの 子宮頸がん罹患不安	自身の子宮頸がん 検診受診状況
対象者①	40歳	13歳	多分させないと思う	やや心配している	定期的に受診
対象者②	47歳	15歳	どちらともいえない	やや心配している	不調時に受診
対象者③	44歳	12歳	多分させないと思う	やや心配している	定期的に受診
対象者④	41歳	13歳	多分させないと思う	あまり心配していない	未受診
対象者⑤	46歳	13歳	どちらともいえない	やや心配している	定期的に受診
対象者⑥	44歳	13歳	どちらともいえない	あまり心配していない	6年以上前に受診
対象者⑦	39歳	13歳	どちらともいえない	やや心配している	6年以上前に受診
対象者⑧	48歳	13歳	どちらともいえない	とても心配している	定期的に受診

A

市役所からのお知らせ

女の子を持つお母様へ

数年前から一部メディアで、
子宮頸がんワクチンの副反応が
取り上げられています。

実際に、ワクチンを接種した方のうち
0.004%の方に
重篤な副反応が発生しています。

国もこの事実を認識した上で、
多くの先進国同様、
娘さんの身体と人生を守るために、
子宮頸がんワクチンをおすすめしています。

市役所からのお知らせ

女の子を持つお母様へ

「子宮頸がんワクチンは副反応が心配」
という声をいただきます。

残念ながら、
副反応が全くないワクチンはありません。
重篤な副反応の発生率は
子宮頸がんワクチンで0.004%
歴史の長い日本脳炎ワクチンでさえ
0.0025%

この事実を認識した上で、
娘さんの身体と人生を守るために、
国は子宮頸がんワクチンをおすすめします。

市役所からのお知らせ

女の子を持つお母様へ

子宮頸がんは、
がんの中では多い方ではありません。

しかし、子宮頸がんには他のがんと違う
怖さがあります。
早期に発見されても、
子宮を全部摘出する可能性が高いのです。

子宮頸がんは、ワクチンで予防できる
唯一のがんです。

とくに、性交渉開始前の接種が
効果が高いと言われています。

※子宮頸がんワクチンで重篤な副反応を起こす確率は、10万人中約4人です。

市役所からのお知らせ

中学生の娘さんを持つお母様へ

日本では、

毎年**約9,000人**が子宮頸がんにかかり、

約3,000人が亡くなっています。

子宮頸がんは、ワクチンと検診によって
予防できる、数少ないがんです。

娘さんの未来を守るためのワクチン、
この機会を逃さず、接種してください。

市役所からのお知らせ

中学生の娘さんを持つお母様へ

子宮頸がんは、ワクチンによって
その**60~70%を予防**できるがん。

ワクチンを打つことで、年間
約2,000人の命が助かる
といわれています。

娘さんの未来を守るためのワクチン、
この機会を逃さず、接種してください。

市役所からのお知らせ

中学生の娘さんを持つお母様へ

若い女性に多い子宮頸がん。

子宮頸がんの怖さは、早期に発見されても、
子宮の摘出や放射線治療によって

子どもが産めなくなる

ケースが少なくないこと。

20~30代の若い女性でも

年間約1,500人もの方が

将来、子どもを産みたくても産めない状況に
なっています。

娘さんの未来を守るために、
お母さんが今できること。

予防ワクチンの接種で、

子宮頸がんはその**6割~7割**が防げます。

市役所からのお知らせ

中学生の娘さんを持つお母様へ

「予防はしたいけど、副反応が怖い…」
副反応報道後、多くの方がそう感じています。

中学生になる娘さんをもつお母さんの
実に、**68%**が、副反応が起こる確率は
100～1,000人に1人程度
だと回答しています。

でも、
実際の子宮頸がんワクチンの副反応リスクは
10,000人～100,000万人に1人。

一方で、日本女性の**100人に1人**は
子宮頸がんになるのです。

正確な情報を基に
正しい判断をしていますか？

市役所からのお知らせ

中学生の娘さんを持つお母様へ

ワクチンは病気を防ぐもの。
一方で、ワクチン接種にはリスクも伴います。

疾病	ワクチンによって救われる命 (推計)	重篤な副反応 (1万人当たり)
百日咳	10,000~17,000人	
ジフテリア	2,000~3,800人	0.036人
破傷風	2,000人	
ポリオ	数百~1,000人	0.053人
日本脳炎	2,000人	0.257人
子宮頸がん	2,000人	0.413人

子宮頸がん予防ワクチンでも、
0.004%の
重篤な副反応リスクが報告されています。

厚生労働省は、
重篤な副反応が起こった際の診療体制や
健康被害救済の体制を整えています。

市役所からのお知らせ

中学生の娘さんを持つお母様へ

若い女性に多い子宮頸がん。

でも、**20代女性の9割**は、
子宮頸がん検診を**受診しません**。

「病院に行く習慣がない」
「まだ若いから、大丈夫」
「婦人科に行くのは、恥ずかしくて…」

手遅れになって**子宮を失ったり**、
最悪の場合**死に至る**こともあります。

今、このときに、娘さんのために
お母さんだからできること。

娘さんに是非ワクチンを接種してください。

市役所からのお知らせ

7

中学生の娘さんを持つお母様へ

子宮頸がんの原因となる
ヒトパピローマウイルスは、
セックスによってうつります。

残念ながら現在の日本では、
このウイルスはごく一般的なもので、多くの女
性が生涯一度は感染するといわれています。

オーストラリアでは、**女兒だけでなく
男児にも定期接種を行い、**
ヒトパピローマウイルスは
国全体として減少してきています。

**子宮頸がんを、
過去の病気にするために。**
娘さんも是非ワクチンを接種してください。

市役所からのお知らせ

娘さんを持つお母様へ

娘さんの世代は、
子宮頸がんから解放されつつあります。

2008年にノーベル生理学・医学賞を受賞した、
子宮頸がんの原因ウイルスの発見から、
ワクチンが誕生しました。

ワクチンで子宮頸がんを予防することは、
すでに120カ国以上で当たり前になっています。

10代での接種が効果的です。
あなたの娘さんにもぜひ勧めてあげてください。

※接種を受けた方のうち、**99.996%**は、
重篤な副反応もなく健康に暮らしています。

娘さんを持つお母様へ

国は、ワクチンで子宮頸がんを予防することを
推奨しています。

子宮頸がん予防ワクチンは、
ウイルス発見から20年の研究を経て
開発されました。

数年前に、強い副反応が
一部メディアで取り上げられましたが、
実際には、接種した人のうち**99.996%**は、
重篤な副反応はありませんでした。

子宮頸がんは、
ワクチンで予防できるがんです。
性交渉を経験する前の、
10代での接種を強くおすすめします。

市役所からのお知らせ

10

娘さんを持つお母様へ

子宮頸がん予防ワクチンは、
世界120カ国以上で接種されており、
効果的で安全性の高いと証明されています。

日本では、
副反応がメディアで取り上げられて以来、
国から積極的な勧奨は中断しましたが、
他の国では副反応が報告されても
接種が中断されたことはありません。

子宮頸がんは、
早期で発見されたとしても子宮摘出になる
可能性が高いがんです。
ワクチンによる予防をおすすめします。

娘さんを持つお母様へ

子宮頸がんは、予防できるがんです。
予防する方法は2つあります。

ひとつは、
定期的に婦人科で検診を受けること。
がんになりそうな細胞を
見つけることができます。

ただし、20代前半の若年女性の受診率は
10%に届きません。

もうひとつは、
子宮頸がん予防ワクチンを接種すること。
世界120カ国で積極的に接種されている、
効果の高いワクチンです。

市役所からのお知らせ

娘さんを持つお母様へ

「子宮頸がん予防ワクチンはうちの子にはまだ早い」とお考えですか？

子宮頸がんは
性交渉によって感染するウイルスが原因なので、
性に興味を持ち始める前の年齢からの
ワクチン接種が効果的です。

世界の先進国同様、
日本でも中学生からの接種を推奨しています。

※数年前からメディアで取り上げられている子宮頸がん予防ワクチンの副反応リスクは、下の表のとおりです。（厚生労働省HPより）

主な症状	報告頻度※
呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー	約96万接種に1回
両手・足の力の入りにくさなどを症状とする末梢神経の病気	約430万接種に1回
頭痛、嘔吐、意識の低下などを症状とする脳などの神経の病気	約430万接種に1回
外傷をきっかけとして慢性の痛みを生ずる原因不明の病気	約860万接種に1回

（※2013年3月までの報告のうちワクチンとの関係が否定できないとされた報告頻度）